

高校生の進路選択とアドミッション・ポリシー認知に関する調査報告

藤 境 智一¹⁾

1 はじめに

大学のホームページに「受験生のみなさんへ」という入り口をよく見かける。その入り口から次に進むと、アドミッション・ポリシーなるものが目に飛び込んでくる。宮崎大学のホームページも例外ではない。大学側はこれを重視しているわけであるが、受験生はどうだろうか。彼ら彼女らにとってアドミッション・ポリシーはほんとうに重要な情報なのだろうか。それ以前に、アドミッション・ポリシーが受験生に難解でわかりづらいということはないだろうか。そこで、宮崎大学大学教育研究企画センター入学・進路選択研究部門では同大学の入学・進路選択専門委員会と宮崎県立宮崎西高等学校の協力を得て、高校生を対象とするアドミッション・ポリシー周知に関する調査をおこなった。

本調査では、アドミッション・ポリシーの重要性について次のような前提に立っている。アドミッション・ポリシーの主な内容は、教育プログラムの内容や目標、プログラムが学生に求める資質、それらに基づいた入学者選抜の方針である。志願者が学科・課程を選ぶときに必要となる情報がここにまとめられている。学生が大学を選ぶ時代の到来とともにアドミッション・ポリシーが注目される理由はここにある。もう一つは、志願者確保を優先するあまり、教育内容とかけ離れた入学者選抜方法の採択と、それによって引き起こされる大学教育の混乱を未然に防ぐ学力管理の役割も担っている。

そればかりではない。学習者のニーズが多様になればなるほど、そして、大学から提供されるプログラムの種類が豊富になればなるほど、明確なアドミッション・ポリシーを掲げることで両者の整合性を高めることが求められる。また、学生がプログラムの中断や他のプログラムへの編入を希望するとき、学ぶ側と教える側とが入学時にどのような合意を形成していたのかを確認しなくてはならないこともある。アドミッション・ポリシーには、プログラムの内容に応じた適切な入学者選抜の基準が明示されている。しかし、他にも様々な役割を担っており、

近年、入学から卒業までに学生がたどる経路が多様化するのにもなってその重要性はいっそう高まっている。調査では、1)アドミッション・ポリシーの認知、2)周知のための有効なメディア、3)アドミッション・ポリシーの文章表現に焦点を当てた。対象者は高校1年生、2年生、3年生である。では次に、学年別の分析を中心に結果を報告する。

2 アンケートの構成

調査に用いたアンケートの設問は以下の6つの内容に大別できる (Appendix 1 参照) : ①受験校決定の理由、②大学受験に関する情報源、③アドミッション・ポリシーへの接触と情報源、④宮崎大学に関する認知と情報源、⑤宮崎大学のアドミッション・ポリシーに関する認知と情報源、⑥宮崎大学のアドミッション・ポリシーのわかりやすさ。

アンケートの設問の内容および表現は宮崎大学の仙葉隆教授 (入学・進路選択専門委員会委員長)、宮崎西高等学校の鍋倉一幸教諭 (進路指導主事)、筆者の3名で協議し、宮崎大学側が用意した原案に数回の修正を加えた。この作業によって、高校生が置かれたコンテキストや進路決定プロセスの実態に照らしながら、設問の順序や表現をよりわかりやすく、意味を取り違える余地の少ないものに改めることができた。宮崎大学のアドミッション・ポリシーには土木環境工学科のものを採用した。土木環境工学科は、平成16年に日本技術者教育認定機構 (JABEE) によるプログラムの認定を受け、学内でもっとも積極的にアドミッション・ポリシーの改革に取り組んできた学科のひとつである。

3 調査方法

対象者は宮崎県立宮崎西高等学校の全生徒である。調査は宮崎西高校の協力を得て、平成16年10月21日に実施した。教室で生徒に質問紙を直接配布し、同日回収してもらった。その結果、平均回答率は約95%と非常に高い

1) 大学教育研究企画センター

(表1)。

宮崎西高校は宮崎市内に位置する全日制の県立高校である。普通科と理数科の2学科によって構成され、3年生のほとんどが国立公立大学進学を希望する。とくに理数科には理科系学科への進学を目指して全県から生徒が集まってきている。高校別の宮崎大学志願者数は宮崎西高校が最多で、近年、さらに増加傾向にある。

表1 回答数と回収率

学年	学科	回答数	回収率
1	普通科	352	95.4%
	理数科	84	98.8%
2	普通科	342	94.0%
	理数科	82	96.5%
3	普通科	371	95.6%
	理数科	77	91.7%
計		1,308	95.1%

4 進路決定と受験情報の収集

図1は、志望校決定において重視するもの上位4項目を示している。設問ではもっとも重視するものひとつを聞いている。「教育内容」の数値がもっとも高いが、3年生になると大きく下がる。その一方、「難易度」は3年生になると上昇する。2年生から3年生の間に志望校決定が学力に応じた現実的な選択へとシフトする様子が見えてくる。

学年が高くなるにつれて宮崎大学の受験志望者や大学

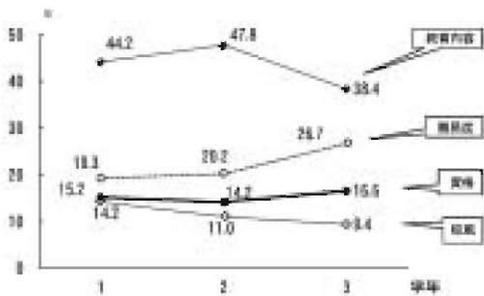


図1 志望校決定においてもっとも重視するもの

のアドミッション・ポリシーへの接触が増えている(図2)。とくにアドミッション・ポリシーへの接触の伸び率は1年生から2年生の間で大きい。また、図3に見られるように宮崎大学志望とアドミッション・ポリシーを見た経験との間には強い正の相関関係が認められる(カイ2乗検定0.1%水準で有意)。しかし、宮崎大学志望者が30%前後の高水準で推移しているのに対して、アドミッション・ポリシーを読んだという生徒は2年生、3年生ともにその3分の1でしかなく、アドミッション・ポリシーの周知という点で課題を残している。では次に、アドミッション・ポリシーへのアクセスにはどのメディアが有効で、どのメディアが有効ではないのかを検証したい。

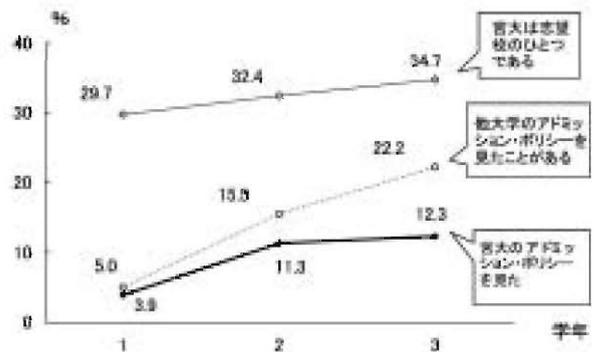


図2 アドミッション・ポリシーの認知

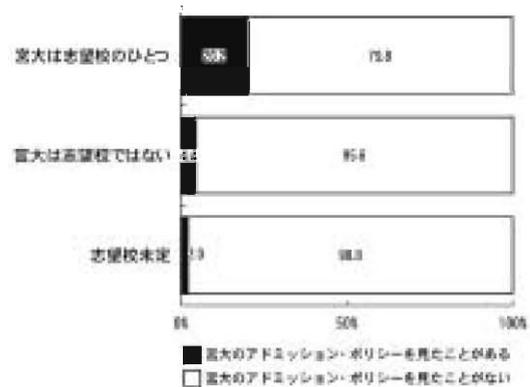


図3 宮崎大学受験志望者のアドミッション・ポリシー認知

図4は、受験情報収集のために活用したメディアやイベントに関する回答結果である。1年生の段階からホームページ（HP）利用者が多い点が際立っている。他のメディアは学年が高くなるにつれて活用される頻度が増し、大学案内より学部案内の方がよく活用されている。また、学年が上がるにしたがって、オープン・キャンパスへの参加率が飛躍的に上昇する。図5は、宮崎大学の学部構成、すなわち教育文化学部、医学部、工学部、農学部の4学部を正確に認識できている生徒の比率を示している。学部案内を読むことやオープン・キャンパス参加による情報収集活動と同じく、学年が上がるにつれて直線的に数値が上昇していることがわかる。しかし、必ずしも宮崎大学に関する情報が高校生の間に十分行き渡っているとは言えない。図2と図5を比較すれば、学部編成という基本的情報について正確に把握している生徒の割合が宮崎大学を志望している割合を下回っている。

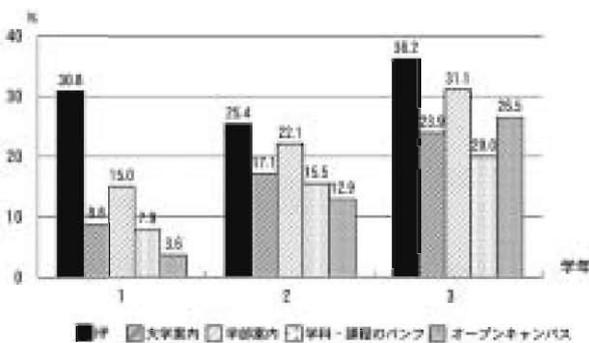


図4 宮崎大学受験の情報源 (複数回答)

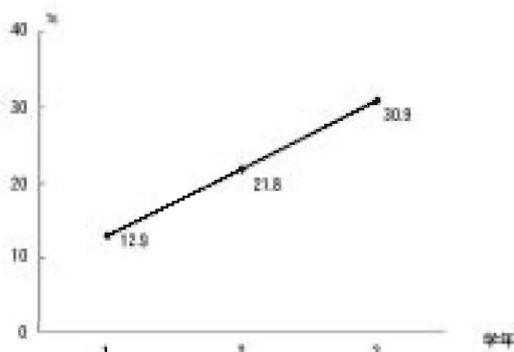


図5 宮崎大学4学部の認知度 (設問1の正答率 Appendix 1 参照)

5 アドミッション・ポリシーのメディアと内容理解

図6にどのようなメディアによって宮崎大学のアドミッション・ポリシーを読んだのかを示した。3年生を見ると、ホームページに並んで大学案内、学部案内の数字が高い。つまり、多くの場合、大学案内や学部案内によってカリキュラムの情報と同時にアドミッション・ポリシーが確認されていることがうかがわれる。入学者選抜要項の数字が低い理由には、入学者選抜要項を手にするときには、すでにアドミッション・ポリシーを理解した上で出願の準備に入っているということも考えられるが、宮崎大学以外の場合には入学者選抜要項が比較的良好に読まれている (図7)。メディアに関する調査結果からは、アドミッション・ポリシーの周知に重要なのは大学案内、学部案内においてカリキュラムと関連づけながら解説を加えること、また、ホームページへの掲載は、志望校がはっきり決まっていない1年生が読むことを前提にわかりやすく紹介することであると推察される。

図8は実際のアドミッション・ポリシーを読んだ直後の内容理解に関する結果である (Appendix 1 参照)。

実際のアドミッション・ポリシーを読んだところ、「よく

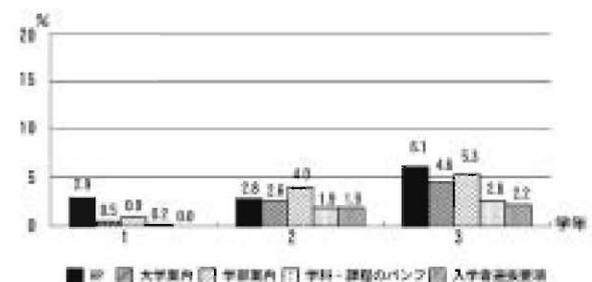


図6 利用したメディア (宮崎大学のアドミッション・ポリシー)

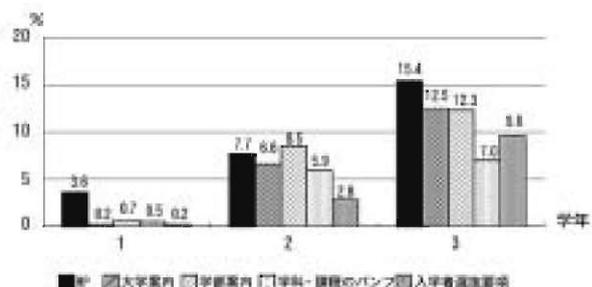


図7 利用したメディア (他大学のアドミッション・ポリシー)

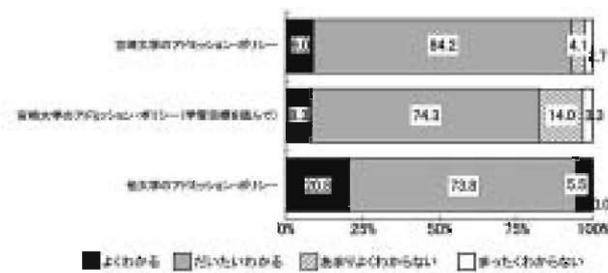


図8 アドミッション・ポリシーの理解

わかる」と「だいたいわかる」とを合わせて90%以上が肯定的に評価した。他大学のアドミッション・ポリシー理解においても学年間の差はなかった。受験の時期が間近に迫り、志望校決定が現実のものとなったからといってアドミッション・ポリシーの読解力が向上するわけではない。つまり、アドミッション・ポリシーは、高校1年生でもよくわかるように表現を工夫することが重要であり、土木環境工学科の場合には概ねそれが達成されている。

学習目標はアドミッション・ポリシーの内容を補完し、理解の助けとなるべきものだが、現実には、学習目標を読むことで高校生の理解は低下した。両者を結びつけなくてはならないことが新たな負担になるのかもしれない。文字数が増え、情報が増えることそのものが少なからぬ負担増となる。「あまりよくわからない」への回答率が4.1%から14.0%へと3倍以上上昇したことに、そのことがよくあらわれている。

アドミッション・ポリシーがわからなかった理由には、長い、堅い、具体的でないなど、難解な文章への指摘が目立つ。「社会基盤の充実に貢献できる高度技術者」とはいったいどういう人なのか、「日本語と英語を基礎とした」とはどのようなことを指すのかという声もあった。「コミュニケーション能力」の中身がよくわからないという指摘などはもつともではあるが、大学関係者には考えさせられる。日常的に使っているため説明が必要だとは気づきにくい。しかし、特筆すべきは、何が理由なのかよくわからないと答えるものが多いという点である。アドミッション・ポリシーの読者を把握するという事は思いのほか時間のかかる作業なのかもしれない。

6 おわりに

本調査では、宮崎大学のアドミッション・ポリシーの周知と表現を検討する上で非常に興味深い実態を把握することができた。最後に、ここから得られた検討課題について簡単にまとめておく。

対象者が宮崎西高校の生徒に限られた点は今回の調査の大きな制約である。同時に、質問紙で取り上げたアドミッション・ポリシーは土木環境工学科のもの一つであった。この二点を考えると、本調査の性格は事例研究に近い。宮崎西高校は県内有数の進学校である。土木環境工学科の教育プログラムはその目的と一貫性について長期にわたり厳しく吟味され、その結果、JABEEの審査を通過した。本調査には、アドミッション・ポリシーの理解について良好な結果が出るようなバイアスが働いている。宮崎大学の教育効果向上に向けて、今後、調査対象の拡大が課題の一つである。

結果で注目すべきは、ホームページは1年生によく読まれているという点とアドミッション・ポリシーのいくつかの表現にみられる大学側と高校生の認識のギャップである。つまり、大学の学科・課程において具体的だと信じられていても受験生には抽象的あるいは難解な表現が少なからず存在した。とりわけ、ホームページのアドミッション・ポリシーは中高生全般に向けた平易な表現であることが望まれる。今後は、そうした個々の表現を取り上げて詳細に理解できたかどうかを調査することがもう一つの課題となろう。また、アドミッション・ポリシーを高校生や大学生によって翻訳してもらってはどうか。彼ら彼女ら自身の言葉による表現の中に意外な発見があるはずである。

追記

年森豊治学校長をはじめとする宮崎県立宮崎西高等学校の先生方並びに生徒の皆さんのご理解とご協力がなければ本調査は実現しなかった。また、実際のアドミッション・ポリシーをアンケートに掲載するにあたり、工学部土木環境工学科の先生方からは承認と貴重な助言を頂いた。この場をお借りして、本調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

Appendix 1

〔質問紙〕

高校生の進路選択に関するアンケート調査

学年・クラス：（ ）年（ ）組 性別：1. 男子 2. 女子（当てはまる番号を○で囲んでください）

問1 まず、宮崎大学の認知についておうかがいします。次の中で宮崎大学にある学部の番号を○で囲んでください。

（当てはまるものすべて）

1. 法学部 2. 経済学部 3. 経営学・商学系の学部 4. 文学部 5. 教育系の学部 6. 理学部 7. 工学部
8. 農学部 9. 医学部 10. 歯学部 11. 薬学部 12. 生活・情報など学際系の学部

問2 あなたは志望校を決めるときにどのようなことを参考にしますか。次の中からもっとも重視しているものを一つ選び、その番号を○で囲んでください。

1. 学科の教育内容 2. 合格難易度 3. 入試方法 4. 校風やイメージ 5. 取得可能な資格 6. 家族や知人の意見
7. その他（具体的に： ）

問3 あなたは大学受験に必要な情報を収集するために、次のような宮崎大学が企画、提供した大学案内を読んだり、宮崎大学の催しに参加したりしたことがありますか。次の中で当てはまるものすべてについてその番号を○で囲んでください。

1. 大学のホームページ 2. 大学案内（大学全体） 3. 学部紹介のパンフレット
4. 学科・課程・コース紹介のパンフレット 5. 出前講義 6. 進学説明会 7. オープンキャンパス（大学訪問）
8. その他（具体的に： ）

問4 問3で答えた以外の一般的なメディアを利用して、宮崎大学のことを調べたことがありますか。当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。ある場合はメディアの具体的な名称を記入してください。（回答例：蛍雪時代、赤本など）

1. ある（具体的に： ）
2. ない

問5 宮崎大学は志望校のひとつですか。当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。

1. はい 2. いいえ 3. 志望校そのものがまったく未定

問6 問5で「2. いいえ」と答えた人におうかがいします。第一志望校はどの大学ですか。注）志望学部、志望学科がはっきりしている場合はできる限り詳しく書いてください。志望校が決まっていない人は「未定」、進学することを考えていない人は「非進学」と記入してください。

問7 宮崎大学のアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）を何かで見たことがありますか。当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。注）どの学科・コースのものでもかまいません。

1. ある 2. ない

問8 問7で「1. ある」と答えた人におうかがいします。何で見ましたか。次の中で当てはまるものすべてについてその番号を○で囲んでください。

1. 大学のホームページ 2. 大学案内（大学全体） 3. 学部紹介のパンフレット
4. 学科・課程・コース紹介のパンフレット 5. 入学者選抜要項
6. その他（具体的に： ）

問9 あなたが受験を考えている大学について、推薦入試または、A0入試による受験を考えていますか。当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。

1. 考えている 2. 考えていない 3. 志望学科に推薦入試、A0入試の設定がない

次の〈資料1〉は宮崎大学工学部土木環境工学科のアドミッションポリシー（入学受け入れ方針）です。これを読んで以下の質問に回答してください。

〈資料1〉

土木環境工学科は、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者（Active, Responsible, Creative and Humane Engineer）の育成を目指しています。学部では技術者としての能力および土木環境分野における基礎能力の養成を、大学院では高度な専門知識の習得および研究開発能力の養成を教育目標としています。

したがって、本学科では次のような人を求めています。

1. 自然との共生が可能な生活・生産基盤（水道、下水道、公園、道路、橋、トンネルなど）の建設や維持補修、交通計画や都市計画、環境保全や廃棄物処理・資源化などの技術や計画に興味を持っている人
2. 土木・環境分野および社会的課題についての興味をもち、それらに関し本や新聞を読むなど積極的に自己学習できる人
3. 自然科学の基礎学力（数学、物理および化学）を有している人
4. 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を有している人

問10 この学科がどのような人物を受け入れようとしているのかははっきりわかりますか。選択肢の該当する番号を○で囲んでください。

1. よくわかる
2. だいたいわかる
3. あまりよくわからない
4. まったくわからない

問11 問10で「3. あまりよくわからない」「4. まったくわからない」と答えた人へ。

この文章のどのようなところにその原因があると思われますか。

次の〈資料2〉は宮崎大学工学部土木環境工学科における卒業までの学習目標です。これを読んで以下の質問に回答してください。

〈資料2〉

(A) 技術者としての基礎（数学を含めた自然科学の知識、コミュニケーション能力、自己学習能力、課題解決能力、技術者としての倫理）を身につけている。

(A-1) 数学を含めた自然科学の知識

土木環境工学の技術者に必要となる数学、物理学などの自然科学や情報処理技術に関する基礎知識を身につけている。

(A-2) コミュニケーション能力

調査・実験・研究内容や成果について図表などを使って正確でわかりやすく記述、発表や質疑応答ができるとともに、専門分野に関する英語を理解・記述するための基礎的な能力を身につけている。

(A-3) 自己学習能力

土木環境工学の分野に興味を持ち、演習などを通じて自主的に学習する習慣を身につけている。

(A-4) 課題解決能力

土木環境工学の分野における課題の発見から解決にいたる手順や方策を計画・遂行できる能力を身につけている。また、調査や実験を計画・遂行し、結果を正確に解析して考察する一連のプロセスを体得している。

(A-5) 技術者としての倫理

工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解するとともに、公共の福祉の向上と環境保全を使命とする土木環境工学の技術者として必要な倫理・規範や責任を理解・判断できる。

(B) 土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力を身につけている。

自然との調和をはかりつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤を計画・設計・管理・評価する上で必要な、計画学系、建設材料工学系、構造工学系、地盤工学系、水理・水工学理系、水処理・環境工学系の専門能力を身につけている。

(C) 社会の要請を察知し、理解して適切な行動ができる。

現代社会の土木環境工学に対する要請を察知し、技術者として多面的に考察するとともに解決すべき課題として設定できる。

問12 資料1と資料2とを読むことで、この学科がどのような人物を受け入れようとしているのかははっきりわかりますか。選択肢の該当する番号を○で囲んでください。

1. よくわかる
2. だいたいわかる
3. あまりよくわからない
4. まったくわからない

Appendix 2

【素集計】(カッコ内は%)

問1 宮崎大学の学部構成に関する認知

法学部	経済学部	経営学・商学系の学部	文学部	教育系の学部	理学部
197 (14.9)	324 (24.5)	133 (10.1)	373 (28.2)	1169 (88.4)	331 (25.0)
工学部	農学部	医学部	歯学部	薬学部	生活・情報など学際系の学部
932 (70.4)	974 (73.6)	1,001 (75.7)	74 (5.6)	123 (9.3)	184 (13.9)

上段：「宮大にある」と答えた実数
下段：全回答者数に対する比率

問2 志望校決定においてもっとも重視するもの

学科の教育内容	合格難易度	入試方法	校風やイメージ	取得可能な資格	家族や知人の意見	その他	計
511 (43.3)	261 (22.1)	22 (1.9)	136 (11.5)	181 (15.4)	32 (2.7)	36 (3.1)	1,179 (100.0)

問3 宮崎大学受験の情報源（複数回答）

大学のHP	大学案内	学部案内	学科・課程のパンフレット	出前講義	進学説明会	オープンキャンパス	その他
409 (30.9)	221 (16.7)	302 (22.8)	192 (14.5)	33 (2.5)	32 (2.4)	192 (14.5)	28 (2.1)

問4 宮崎大学受験の情報源（問3の項目以外）

ある	ない	計
106 (9.3)	1,037 (90.7)	1,143 (100.0)

問5 宮崎大学が志望校である

はい	いいえ	未定	計
424 (32.3)	690 (52.5)	200 (15.2)	1,314 (100.0)

問7 過去に宮崎大学のアドミッション・ポリシーを見た経験

ある	ない	計
121 (9.2)	1,191 (90.8)	1,312 (100.0)

問8 宮崎大学のアドミッション・ポリシーを目にした媒体（複数回答）

大学のHP	大学案内	学部案内	学科・課程のパンフレット	入学者選抜要項	その他
53 (43.8)	34 (28.1)	45 (37.2)	21 (17.4)	18 (14.9)	7 (5.8)

上段：実数
下段：問7で「ある」と回答した121人に対する比率

問9 推薦入試・A0入試による受験

考えている	考えていない	志望学科に設定がない	計
430 (32.9)	818 (62.6)	58 (4.4)	1,306 (100.0)

問10 宮崎大学土木環境工学科のアドミッション・ポリシーの内容に関する理解

よくわかる	だいたいわかる	あまりよくわからない	まったくわからない	計
118 (9.0)	1,106 (84.2)	54 (4.1)	36 (2.7)	1,314 (100.0)

問12 宮崎大学土木環境工学科のアドミッション・ポリシーの内容に関する理解（学習目標を読んで）

よくわかる	だいたいわかる	あまりよくわからない	まったくわからない	計
108 (8.3)	962 (74.3)	181 (14.0)	43 (3.3)	1,294 (100.0)

問13 過去に宮崎大学以外のアドミッション・ポリシーを見た経験

ある	ない	計
187 (14.3)	1,122 (85.7)	1,309 (100.0)

問15 宮崎大学以外のアドミッション・ポリシーを目にした媒体（複数回答）

大学のHP	大学案内	学部案内	学科・課程のパンフレット	入学者選抜要項	その他
119 (63.6)	86 (46.0)	95 (50.8)	59 (31.6)	57 (30.5)	10 (5.3)

上段：実数
下段：問13で「ある」と回答した187人に対する比率

問16 宮崎大学以外のアドミッション・ポリシーの内容に関する理解

よくわかった	だいたいわかった	あまりよくわからなかった	まったくわからなかった	計
38 (20.8)	135 (73.8)	10 (5.5)	0 (0.0)	183 (100.0)